

京都嵯峨野三千院

子ども若者育成支援のすすめ **学び社会参加へ 生活化とは何か・・・**

来る9月8日(日)午後2時半から岡本圭太さんの講演会を開催します。締め切りを過ぎても満席にはなっていません。ぜひお誘いあわせの上ご参加ください。さて岡本さんの著書2冊を読み返し、改めて社会参加を深く考えてしまう。勉強や仕事は現代社会では必須だが、本来人間にとって“生きてく”存在として学ぶこと、働くことが不可欠なんだと思う。ネバならない勉強や仕事から解放されて、学びと働きを生活化するため“必然”が不可欠。僕はそれを社会参加と言いたい。学歴偏重や資格社会が人間の学びと働きをダメにし生活化を疎外する・・・と懐疑的である。

岡本流居場所論 吉田雄人市長も参加します

当日紹介する2冊の著書、岡本圭太さんは自分を語り自己開示する。特に居場所論と親たちへのメッセージにページを割く。僕が目にするのは居場所論。学校は居場所だと言うが、もっと私的な場所だと僕は思う。自分を中心に安心できる場所だ。もちろん家にはある。家以外の気の置けない仲間と、自分を刺激し興味や関心を高めていく周辺の人たちとの場所だ。既存の場所を利用するのが一般的。アンガージュマン・よこすかもその一つ。川崎には“たまりば”、横浜には“リロード”“K2”、小田原には“CLCA”など県内外に数多ある。更に自己流、手作りで作られる。それはネット上でもいいし、cafeの一角でもいい。岡本流居場所論に耳を傾け、当事者や親たちへのメッセージを聞いてください。岡本さんを身近に！

まりさん・秀くんのピアノ、高橋さん等の音色に酔って

親の会と一緒に育ててきた三澤さん、6年間つかず離れずの関係だった高比良くん。お二人はピアノと言う特技を持ち、まりさんはボランティア、秀くんは自分の腕を磨いて成長途中。一方、会員の高橋さんはお箏で人とつながり、岩佐さん・柏木さんらのお仲間と日々人の絆づくりに取り組んでいる。お話と音楽をご堪能！あれ・・・

子ども若者を理解し応援するつどい

～トークと音楽、そして人とひと～

ひきこもりからの生きなおし

- 講演者 岡本圭太さん(よこはま若者サポートステーション 相談員)
コーディネーター:滝田衛(研究所主宰、元NPO理事長)
- 演奏者 ピアノ:三澤まりさん、高比良秀一さん、
箏:高橋孝子さん・岩佐由紀子さん
フルート:柏木礼子さん

日時 2013(平成25)年9月8日(日) 開場:14時15分
開演:14時30分 終演:16時45分
場所 横須賀市総合福祉会館7階第1音楽室
参加費 500円 定員150名 ※申込締切8月31日

主催 子ども若者応援団
後援 横須賀市

ひきこもりから
「生きなおし」へ
来月、横須賀で集い
子どもや若者の多様な生
き方を応援する市民団体
「子ども若者応援団」が9
月8日、横須賀市本町の市
総合福祉会館で「ひきこも
りからの生きなおし」と題
した集いを開く。参加費5
00円。申し込み締め切り
は31日。

横浜市内の若者向け自立
・就労支援施設で相談員を
務める岡本圭太さんが講演
する。岡本さんは就職活動
の失敗をきっかけに、大学
在学中から25歳ごろまでひ
きこもりを経験した。コー
ディネーターは、教員やN
PO法人などとしての活動
を通じていじめや不登校、
ひきこもりの子どもを支援
してきた滝田衛さん。

貧困で社会環境が悪化する
中、子どもや若者を孤立さ
せない地域社会づくりが必
要」と話している。午後2
時半から。参加希望者は氏
名、連絡先、性別、年齢を
明記し、ファクス0467
(33)1415、電子メー
ルqq5656r9@happytown.
ocn.ne.jpに申し込む。問
い合わせは、滝田さん ☎0
90(7212)4055。
(佐本 真里)

上 岡本圭太さん講演会告知する神奈川新聞

コラム風 8月の9日間、イギリスに行く機会を得た。ロンドン、ウエールズ・バンガー、そしてスコットランド・エジンバラへ。バンガーは素敵な街並み、穏やかな人々に出会えた。僕はその近くにあるリパプールが目的の一つだった。そう、ビートルズ(ズートルピーではない おやじギャク?)の聖地、知っている人はもちろん知っている、ライブハウスのキャバクラ。僕は震えた、ステージ横に座ってビールを飲んだ。前回書いたように、僕はアメリカンモダンフォークのPPMの愛好者で、ビートルズは今一つ、来日した時も白黒TVで見た程度。しかし思い起こすことがある。高校時代の2年3組、僕の後ろの多田くん。小柄で寡黙な彼は授業中でもドラムスティックを手に机をたたいていた。ロずさんでいたのはホワットアルバムの曲、ビートルズだ。定かでない記憶の扉を開くと、借りたアルバムを家のビクターステレオで聞いていた。驚いた、衝撃に心臓を撃たれた。生徒会をやっていた僕は、その年の3年生を送る会でバンド演奏を企画し実施した。僕らのモダンフォークバンドは下手だったが、ビートルズのコピーバンドが出て素晴らしかった。そして翌年3年生、文化祭が体育祭と同時に開催する追高祭を初めて作った。時は1969年、全国を学生運動が吹き荒れ、僕たち3年8組は文化祭でベトナム戦争反対と叫びB52を天井からつるした、訳も分からず。勢いだ? 風は吹いた、皆でやれば学校にも新しい風が吹くのだ。教師たちはどうだったのだろうか? あの熱い風不良学生の新しい風は、ビートルズからやってきた!

寄稿第3弾 自殺問題について (S 男性・32歳 通信制大学在学中)

最近の報道にて、自殺者が年間に約3万人から少し減少したといわれている。私自身が現在精神疾患を患いそのことから自殺については想いを巡らせた夜もあった。『五体不満足』で有名な乙武氏が自殺について自らのブログにて、多くの自殺者がいる状況を「社会による殺人」と乙武氏は呼んだ。さらに乙武氏は、死を積極的に選んだのではなく、選ばざるを得なかったと書いている。この「社会による殺人」という言葉には気づくことが多くあった。つまり、自殺に追い込んでいるのはこの私を含めた我々が形成した社会であり、また、この「社会による殺人」という言葉から私は、不幸にも病で亡くなる方、事故で亡くなる方と自殺は(様々な異論があることを承知の上で)同義であると考え。憲法25条には生存権が明記されており、国家が最も守らなければならない人の命であるはずの問題。繰り返す述べるが年間に約3万の自殺者がいるということは、遺族の数はその数倍になり、その多くの人々が絶望という言葉では言い尽くせない喪失感を抱えているであろう。

このような、大問題を抱えながら、現政権は消費増税(社会保障はどこに消えたのか)、TPP交渉、福島の人々を何とも思っていないかのような原発再稼働の動きなどが盛んに議論されているように見え、自殺対策は行っているのだろうが、先に挙げた問題より矮小化されているように感じる。また先の参院選では議論にさえならなかった。経済的には豊かで一見幸せそうに見える我が国日本にこのような大問題があることを認識し共有し考えるという国民的コンセンサスを形成し、国民・国家を巻き込んだ大議論になることを切に願う。

いじめ防止を考える(神奈川新聞社主催)に参加して いじめと自死、学校とは

川崎市で3年前の6月7日、篠原真矢さん(中学3年生)が自宅で亡くなった。修学旅行の直後だ、いじめによる自死。神奈川新聞社の教育担当者は、彼のお父さん篠原宏明さんを招き、8月27日(火)4人のゲストといじめ防止について話し合いを持った。僕も声をかけていただき、旧知の西野さん(NPOたまりば理事長)や新倉さん(元県警少年相談センター長)に会うために出かけた。平井広氏(厚木市教育長)、司会は高橋勝氏(帝京大学大学院教授)、初めてお会いする。「いじめられているのに、どうして学校へ行くの?」と新倉さんは言った。西野さんは「子どもを守る、不登校を選択肢に入れること」と提言。平井氏は「暴力を受けている子どもを守ることが最優先」と教育の最前線から発言、そこで高橋氏は「法律(いじめ防止法)による取り組みは可能か?」と問いた。「形式論でなく、遺族の知る権利を」と西野さん、「法は上手に使う。いじめのない社会は大人が作る」と新倉さんがつないだ。更に平井氏は「大人の本気度を示すもの」と言い切った。最後に篠原さんは「いじめは大人がつくっている。子どもには『そのままでもいい』と伝えたい」と結び、司会の高橋氏は「子どもを承認するメッセージを」とまとめた。上記さんの寄稿文にあるように、自死を個人の責任論に帰結する社会を改め、「社会による殺人」との理解を、僕も進めるべきだと改めて考える時間だった。篠原さんからNHKスペシャル『僕はなぜいじめを止められなかったのか?』(8月25日放送のDVD)を頂いた、感謝です。篠原家と友人たちを追った秀作です。ご連絡を頂ければお貸いたします。

会員及び支援者の皆様の声 ○支援者応援の声 △僕のコメント

○お誕生日おめでとございます。いやー、僕もなかなか本格的なおっさんに熟成されてきていますよ。そんなわけで、復帰したら若い連中を組織して自分なりの運動に巻き込んでいく活動をしたいなあと考えています。「まだ死んじやないねーぞ!」という気概は残っています。気持ちが沈むとそうもいえなくなってしまうんですが。(後略) さんより

△おおよそ10年前、僕はさんと出会った。素敵な青年。今は体調を崩しているが、当事者として神奈川県で先駆的なロードを牽引してきた人だ。強さも弱さも、笑いも涙も、等身大のさんとまた仕事をしたい僕は思っている。七里ヶ丘に来てください。

子ども若者応援団会議 回を重ねるたびに大きな輪になって

8月29日(木)午後2時 横須賀市市民活動サポートセンターには11人が集まり子ども若者応援団会議が開催された。内容は近況交流と9月8日イベントの打ち合わせ。参加者は実に多彩だ。初参加者は県議会議員の安川さん、脱原発の今井夫妻、9月8日演奏者の三澤さん。もちろん、前回からご参加の当事者新舩さん、当事者のご両親涌井さん、高校生(元不登校経験者)の母親高島さん、元校長の山本さん。そして1回目からご参加の川辺さんと僕である。皆さん僕の体調を気遣って下さいましたが、笑い飛ばしながら会は進みました。僕は資料を回覧した。イギリスの新聞にニート(無業者無就学者)64万人の記事(8月14日付)、9月8日参加者FAX一覧、サポセン団体登録記載など等。皆様から「若者が生き辛い」「親の悩み」「子育て支援の必要性」「市議会を子どもたちに傍聴させたい」「出会った医師からの年賀状」「学習支援の大切さ」など頂いた。左写真は前回分、今回写真を撮るのを忘れました、トホホ…反省です。



第3回応援団会議 7月31日(水)

ご案内 (研究所は駐車場は2台分あります。電車の方は駅までお迎えします。事前にご連絡ください。)

右の日程が進めます。相談のお申込みはいつでもどうぞ。訪問につきましては、月・木以外でもお受けしますのでお気軽にご相談ください。連絡先は携帯(09 0721 24055)へ。
応援団会議は9月の講演会の反省会と交流をします。お時間のある方は参加ください、日頃思っていることを交流しましょう。会場は右記の通りです。

9月の開所日程			
2日(月)	相談(予約済み)	16日(月)	祝日 相談なし
5日(木)	相談(予約済み)	19日(月)	相談
9日(月)	午前中のみ	23日(月)	祝日 相談なし
12日(木)	相談	30日(月)	相談

応援団会議 9月26日(木) 午後2時～3時
横須賀市市民活動サポートセンター(京急汐入駅)